

H. 27
(2015年)

十二月 (今月の揭示板)

真宗大谷派・願成寺

恵みの雨は、全てに等しく降り注ぐ

自然を『しぜん』と読むのは明治時代以後で、それ以前は『じねん』と読み、『全ての繋がりにから生まれる全生物を生かす大きな働き』を表す仏教用語でした。親鸞聖人は『自然法爾(手紙)』の中で『自は自ずから。然は、そうさせるで、全生物を生かす働きの自然の法(則)』真理・真実です。法爾とは阿弥陀仏(如来)の本願のことで、法のまま展開して行く『自然界』と説かれました。如来とは『真理の世界から来た(覚った)人』で、本願とは『全生物を救いたい』との仏様の願いです。そして、本願を受け取るのは私達人間です。全てのものは法(則)により、無数の関係(因)縁により存在します。『自然の法則により、全てのものを生かす大きな働き』を阿弥陀仏(如来)と言います。『自分の思い通りにしたい』と思うが、『ご縁ご縁・皆ご縁、困った事も皆ご縁』と『水が流れ下るように、成るように成る』と諦(あきら)めると、苦悩が薄れます。

主な参考資料

- (1) 藤田徹文(著)『新々みちしるべ・如意一菩薩シリーズ』仏教伝導協会、P. 1351~140(平成23年)。
- (2) 村上宗博(著)『花すみれ・2015年11月号』真宗大谷派・大谷婦人会、P. 2~7(平成27年)。
- (3) 田中教照(著)『日本人のこころの言葉』創元社、P. 154~157(2011年)。